

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
<b>健康で</b> ○病気にかかっても不安のないまち ○病院の充実 ○未病対策に力を入れる ○ケアタウンの実施 ○フィットネスクラブの充実 ○地域で助け合いができる ○貧困問題に取り組む ○生涯にわたって自立ができるまち ○未婚率が下がる ○子育てに関する情報誌やサイト ○ネウボラ全世帯サポート	○健康診断の受診者を増やす対策 ○健康第一の予算配分 ○医療機関の増加 ○医者が増加 ○ヨガなどを学ぶ 公共事業として取り入れる ○障がい者や高齢者の話し相手や新たな出会いの場を作る ○公助・共助・互助のできる仕組みづくり ○電話でのサポートを取り入れる ○結婚前に子育ての楽しさを伝えるイベント ○コミュニケーションのとれる機会を増やす。友人づくり（特に20歳代～）	
<b>心豊かに</b> ○市民に市の良さが伝わる ○さまざまな世代の人が行きかう場 ○さまざまな世代の人々が交流できる機会 ○次世代リーダーの育成 ○きれいなまち（街並・ゴミが落ちていない） ○自然豊かなまち ○食の安全（良いものが安く手に入る） ○美術館の充実 ○文化活動が盛ん 芸術 ○公園がまちの中にある ○図書館の充実（調べ学習ができる）	○誰もが見やすい広報紙 ○ボランティア活動への精神的サポート、気持ちの面での支え ○ボランティアの報酬として地元の食品を ○教育、情報、生産者へのサポート ○地産地消 ○文化会館でのイベントを増やす（若い人でも興味を持てる） ○学校教育との連携 ○子どもがさまざまな経験をする機会を増やす ○地域福祉コーディネーターの育成 ○資格取得を企画・支援	○食に関心を持つ

主な意見

- 「こうなったら良いな」は、「健康で」と「心豊かに」の2つに大きく分けた。
- 「健康で」の内容では、1つ目として、病気にかかっても不安のないまち、病院が充実しているまち、未病の対策が行き届いているまちという意見が出された。「そのために必要なこと」では、事前に病気になるのを防ぐために健康診断の受診者を増やす、健康関連の予算配分を厚くする、出来るだけ地域内で医療が受けられるようにするための医療機関の増設などの意見が出された。
- 2つ目として、ケアタウンの実施、フィットネスクラブの充実したまちという意見が出された。「そのために必要なこと」では、ヨガなどを学ぶ講座の開催などができると良いとの意見が出された。
- 3つ目として、地域で助け合いができるまち、貧困問題に取り組めるまち、生涯に渡り社会的に自立できるまちという意見が出された。「そのために必要なこと」では、障がい者や高齢者の話し相手や新たな出会いの場の提供、公助・共助・自助が出来る仕組みづくりがあると良いとの意見が出された。
- 最後に、未婚率を下げられるようなまち、子育て情報のサイトがあるまち、ネウボラが全地域をサポートするまちなどが上げられた。「そのために必要なこと」では、子育ての楽しさを伝えるイベント、何か困ったときに電話で相談できる仕組み、20歳代などの若い世代がコミュニケーションできる場所が必要との意見が出された。
- 「心豊かに」の内容では1つ目として、市の良さが伝わるようになると良いとの意見が出た。市の良さがわかれば、住み続けたいと思うのではないかと。「そのために必要なこと」では、広報紙の充実があげられた。字ばかりではなく、写真を多くすることやさまざまな人の手に届きやすい配布方法があれば良いとの意見が出された。
- 2つ目として、さまざまな世代の人が行きかう場所があり、交流できる機会があれば良いという意見が出された。また、次世代のリーダーが育成できるまちであれば良いという意見も上げられた。
- 3つ目として、ごみが落ちていない、街並みがきれいなまちという意見が出された。ごみが落ちていないというのは例えば、自動販売機横のペットボトル用のごみ箱がもう少しきれいになったら良いのではないかと。また、街並みの部分では、自動販売機に金太郎のロゴを入れるなどもっと統一感があれば良いとのアイデアがあげられた。
- 4つ目として、自然が豊か、食の安全が確保されているとの意見が出された。「そのために必要なこと」では地産地消の推進やそのための教育・情報・生産者へのサポートが必要とのアイデアが出された。
- 最後に、美術館や公園、図書館の充実したまち、文化的な活動の盛んなまちとの意見が出された。「そのために必要なこと」では、文化会館でのイベントを増やす、若者が興味を持てるイベントの開催、学校教育で利用して子どもがさまざまな経験を出来る機会を増やすなどがアイデアとしてあげられた。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
		市民が出来ること
<b>観光</b> ○観光客増加 ○小田原駅周辺活性化 ○商店街の活用 ○まちの活性化、商店街の充実 ○B級グルメの開発 ○地元に仕事がある ○南箱線の活用 ○地元にイイお店がある	○カジノ誘致開発 ○中心市街地の再構築・各地区の商店街の活性化 ○空き店舗対策など新規起業者の支援 ○インスタ映えする様なスポット・グルメを作る ○オリジナルかまぼこを作る ○Instagramに投稿してもらう ○浴衣・着物レンタル ○城下町 昔ながらの街並みを作る ○茶屋をつくる（団子や甘酒の提供） ○かご体験（人力車ではなく） ○県西広域圏を扱う観光協会の設立 ○外国人向け情報の集約・発信（web等） ○民泊受け入れ地域の開拓 ○翻訳アプリの活用 ○和を感じられる（量など）体験プログラム ○小田原駅で大雄山のお土産を売る	○インスタなどのSNSにオススメスポットやグルメの投稿（#小田原などタグ付け） ○市の魅力をアピール 広報・イベント ○ごみを捨てない・花を植えるキレイなまちづくりに参加する ○農業・商業 後継者への支援
<b>人口増加</b> ○居住者の若年世代の増加 ○都心からの流入 ○（小田原・南足柄）出身者の還流	○自然を生かした生活スタイル ○子育てのプログラム支援 ○2人目以降の出生に対する補助 ○子ども交流の場 ○施設の開放 ○若者が地元に興味を持ち、アイデアを発揮できる場所の提供 ○自由闊達に意見を言える雰囲気作り ○選挙権積立制度	○新しい住民が地域になじめるようなプログラムの構築 ○自治会活動の充実・内容の告知
<b>税収（支援施策を支える）</b> ○税収の増加を有効活用 ○Amazonからの税収増 ○将来財政の見通しを得られる	○倉庫業向け課税条例制定 ○カジノ 税収増 ○財政情報の発信の工夫 ○公共施設・インフラ版の人口（築年数）ピラミッド ○前年度比較の歳入歳出のグラフ	

主な意見

- 「こうなったら良いな」では、「観光」「人口増加」「税収」に分けて考えていった。
- 「観光」に関しては、「こうなったら良いな」では、観光客の増加が大切、小田原駅周辺や商店街の活用、地域に仕事がある、地元の良いお店がある、中心市街地の再構築や商店街の活性化などの意見が出された。そのためには、B級グルメの開発や南箱線活用、空き店舗対策、起業支援が必要。更にInstagramなどのSNSでの情報拡散を想定した写真映えするスポットやグルメを作り、市民や観光客にSNSで情報発信してもらう。例えば、オリジナルかまぼこが作れるや浴衣・着物のレンタル、城下町・昔ながらの街並み、茶屋（団子・甘酒）、駕籠（かご）体験などのアイデアが出された。
- 外国人観光客向けとして、量など和を感じられる体験などができるコンテンツを作り、翻訳アプリを利用するなどして、外国人向けの情報の集約・発信をしつつ、外国人が泊まれる民泊施設の受け入れ先の開拓をするなどの意見が出された。
- 県西地域全体を扱う観光協会があれば、県西地域の魅力を一括して発信でき、小田原市で南足柄市のお土産が買えるなど地域の枠組みを越えたような取り組みが出来るのでは、また、その際に行政はイベントのPRをしてほしいとの意見が出された。
- 行政と市民が協力して、農業・商業の後継者の支援をすることが大事との意見が出された。
- 「人口増加」に関しては、海・山・川の豊かな自然を活かした生活スタイルを売り出せば都心から若い世代が流入するのではないかと、大学などで都心に出た地域の出身者が戻って来たくなるような仕組みとして、2人目以降の子どもに対する補助や子どもの交流の場として施設を開放するなどの子育てに関するプログラムの充実、また、若者が地域に興味を持ってアイデアを自由に言える雰囲気が大事ではないかとの意見が出た。0～18歳の選挙権を持たない人の意見も尊重されるような仕組みがあってもよいのではないかと、自治会活動の充実を図り、SNS等で活動内容の告知をすることで移住者や地域に戻ってきた人が地域に馴染めるような仕組みが必要との意見が出された。
- 「税収」は、「観光」や「人口増加」に必要な政策を実行するために必要との視点から、倉庫業向けの課税条例やカジノ誘致などの意見が出された。また、税金の有効活用の観点から将来の財政の見通しが得られるようにし、公共施設やインフラなどの築年数を人口ピラミッドのようにグラフ化したり、広報紙の歳入歳出の記事で前年との比較を載せたりするなど財政情報の発信を工夫してほしいとの意見が出された。

こうなったら良いな	そのために必要なこと	
	市民が出来ること	
<p>○さまざまな場所に商店街が残っている 「商店街再開発」</p> <p>○身近なお店に活気があればまち全体に活気</p> <p>○企業のみち</p> <p><b>地域の商品ブランド</b></p> <p>○地域をPRできるような商品を作る</p> <p>○誇れる地域 小田原・足柄ブランド</p> <p>○地域産業の拡大・拡散「地産地消」</p>	<p><b>様々な顔を持つ小田原・南足柄を活かす</b></p> <p><b>特産品戦略</b></p> <p>○ブランド認定のための戦略を立てる。例えば、「四季を通じた果物のまち」</p> <p>○特産物のブランド化。市の認定品(水産物・干物・かまぼこ)</p> <p>○農産物や特産品を扱ったフェスやマルシェなどを行う</p> <p>○SNSでの情報開示・PR、都市セールス</p> <p>○キャッチコピー、ロゴ、ゆるキャラでイメージの定着</p> <p>○いつでも催し、祭りのあるまち</p>	<p>○地域への声かけ、再出発に向け、役割をつけ働きかける</p> <p>○商店街マップの作成</p> <p><b>発信</b></p> <p>○SNS(フェイスブック、インスタグラム、ツイッター)の活用、宣伝</p> <p>○地元を愛し、今あるもので何か出来ないか考える</p> <p><b>生産・投資</b></p> <p>○地域ごとの特徴を活かした作物の生産</p> <p>○ファンディング</p> <p>○南足柄市の杉を小田原市の木工加工技術で加工し、特産品にする</p>
<p><b>地域と全体</b></p> <p>○それぞれの地域が核になり活性化、全体としても</p>	<p><b>地域を活かす</b></p>	
<p><b>観光</b></p> <p>○観光地としてにぎわう</p> <p>○都会との交流</p>	<p>○お城通り再開発で駅前を盛り上げる</p> <p>○観光バスの運行(小田原・南足柄どちらも行ける、テーマ別のルート)</p> <p>○季節便り 観光バス</p>	<p>○シニア世代の活躍の場を提供</p> <p>○観光ボランティアで地域の魅力を伝える</p>
<p><b>市民</b></p> <p>○市民がいきいき生活している</p>	<p>○市民の日に市民を中心としたイベントを行う</p> <p>○サークルやボランティア活動などに参加しやすいように自分の趣味や特技を共有したり活かしたり出来る場を増やす</p>	
<p><b>市民</b></p> <p>○移住者が増える</p>	<p>○新たな会社・大学・研究所の誘致</p> <p>○移住者に向けた住宅 空き家のリノベーション</p>	

主な意見

- 「こうなったら良いな」では、「観光」と「市民」に関する事、「地域ブランド」など商品に関する事が出された。話が盛り上がった「地域ブランド」について主に説明する。
- 「地域ブランド」では、地域産業を拡大しないと生き生きしない、産業的に誇れる地域になればみんなの心も豊かになるのではとの観点で、地域をPRできるような商品を小田原・南足柄ブランドとして発信していくことができれば産業が栄えて地域を誇れるのではないかとのアイデアが出された。
- そのためには、海・山・川や、山から足柄平野にかけてさまざまな標高の土地があることで、豊富な種類の水産物や果物、農産物が手に入るのでマルシェが出来るのではないかとの意見が出された。グループの議論の中で、それをバラバラに実施してもつまらないので、例えば、四季を通じた果物のまちのようなテーマを置き、何月はこの地域でこの果物が採れるというような1年を通じてさまざまな名産品が採れるのは地域の魅力となるのではないかと、また、名産品によってそれぞれの地域が核となり活性化することで、市全体としても活性化するのではないかとアイデアが出された。取り組みを加速させるには、キャッチコピーやロゴマーク、ゆるキャラの作成や、市や個人がSNSで情報発信が必要との意見がだされた。
- 地域を核としてのイベントやお祭は、地域の歴史の中で自然発生的に生まれたものだが、地域の活性化や地域を活かすことと結びつけるために、果物などの季節感のある名産品を活用するなどし、戦略的に開催すると良いのではとの意見が出された。
- 市民が出来ることとして、PRや果物などの名産品の生産など。また、他地域から人に来てもらい一緒に生産したり、事業化して投資してもらい、収穫した名産品を送ることで更なる投資を呼び込んだりできるのではとのアイデアが出された。
- 「観光」では、観光バスのうめまる号を季節ごとの名所を走らせ、シニアの方にガイドしてもらおうと盛り上がるのではとの意見が出された。
- 「市民」では、市民が生き生き生活できると良いという意見や移住者が増えると良いという意見が出された。

## 第5回

平成29年3月28日(火) 午後7時00分～9時50分

小田原市役所 601 会議室

「2市が1つになることで、新たに出来そうな事を見つける」をテーマに「新たに出来そうなこと」、「それを実現するためには何をする必要はあるか」、「新たに出来そうな事が出来た場合に、どの様なまちになるのか」を話し合った。

### 主 な 意 見

#### ○地域の魅力に関する意見

- 両市の特産品のコラボ商品を開発できる。
- 収穫体験・地場レストランを実施できる。
- 特産品と地域の催しを組み合わせたイベントが実施できる。

#### ○地域の歴史・文化に関する意見

小田原駅から小田原城までを城下町のような街並みにするなど歴史・文化に関連したモノを売りにする。

#### ○観光資源に関する意見

- 箱根への通過点ではなく、導線上の観光スポットを包括的にPRできる。
- 南足柄から箱根に通じる道路を活用して観光客の回遊性を高めることができる。

#### ○子育てに関する意見

- 両市の子育て支援の良い取り組みを取り入れることができる。
- 子ども食堂を介して、子どもから高齢者までが世代間の交流をすることができる。

#### ○教育に関する意見

子どもが地域に関わる機会を多く作ることで、地域に誇りを持つことができる。

#### ○健康・福祉に関する意見

- スポーツイベントの実施による健康増進と交流人口の拡大を図ることができる。
- 未病の取組やケアシステムの充実により医療の充実を図ることができる。

#### ○人口増加に関する意見

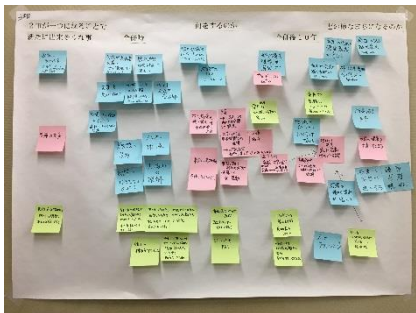
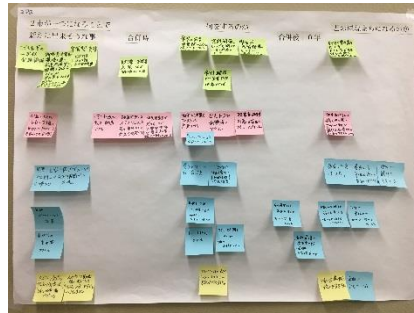
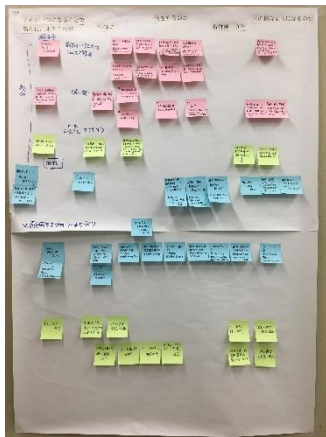
両市のさまざまな魅力を多様性のある都市としてPRすることができる。

#### ○医療に関する意見

市立病院を建て替えることができる。

#### ○道路整備や施設整備に関する意見

広域的な視点に立って、インフラ整備や施設整備を実施することができる。



※上段左から1班、2班、3班、4班の内容。

2市が一つになることでの新たな出来事	合併時	合併後 10 年	どの様なまちになるのか
<p><b>新市内</b> 特産品の更なる販売促進</p>	<p>新市のバラエティを活かした特産品</p> <p>新たな特産品の開発（南足柄市と小田原市のコラボ）市民によるエココンテンツ</p> <p>知ってもらったための取り組み（SNS、ポスター、パンフレット）体験ツアーなど</p>	<p>①地域毎の名産品、催し、祭りの総合計画を策定</p> <p>②-1 主要名産品の開発（例えば、地域の特色を活かした果物、加工品）</p> <p>②-2 催し・お祭りの再編・開発</p>	<p>両市が今持っている魅力をたくさんの人に知ってもらい多くの人を訪れることにつながり地産地消が活発になる。</p>
<p>バラエティのある新市の名産品（果物・海産物）×催し・祭りを活用した地産・地場型エンターテインメントサービ</p>	<p><b>催し・祭</b></p> <p>①地域毎の名産品、催し、祭りの総合計画を策定</p> <p>②-1 主要名産品の開発（例えば、地域の特色を活かした果物、加工品）</p> <p>②-2 催し・お祭りの再編・開発</p>	<p>③主要名産品の運動型の催し・祭りの実行</p> <p>④宣伝（マスコミへの働きかけ、SNS・HP を使った個人での情報発信）</p>	<p>良い（誇れる）もの・ことを一年通して地域で分担してプロデュース・実行する。 地域・地場型エンターテインメントに根ざす元気で豊かなまち。</p>
<p>観光地にするため駅周辺を活性化</p>	<p><b>歴史・文化を活かす</b></p> <p>小田原駅～小田原城までの道のりを鎌倉小町通りのようにする</p>	<p>・城下町のような街並み ・2市の特産品・名産品を土産に食べられるようにする ・2市の特産品・名産品をお土産として売る ・駕籠体験、着物、鎧 ・寄木細工雑貨など</p>	<p>知名度 UP、観光客増加、資金が増える。 住みたい人が増えることで、医療や教育の施設にお金を使用できる。</p>
<p>観光 PR をまとめて出来るようになる 集客力のある箱根の隣接市として周辺観光をアピールできる 箱根ジオパークの PR・浸透</p>	<p>行政・観光協会・観光系業者などがメディアへの PR、イベントの実施</p> <p>箱根への登山道、林道、トンネルなどの整備</p>	<p>箱根の周辺・導線上の観光スポット PR</p> <p>箱根目的だった観光客を呼び込む</p> <p>観光協会・観光ボランティア、観光事業者の連携</p> <p>新たな観光スポットの発掘・再考</p>	<p>観光系の仕事が増える。 箱根の玄関口としてではなく、2市内だけでも充実した観光が楽しめる。 自然豊かで住みたいようになるようなまちにイメージアップ。</p>

2市が一つになることで新たに出来ること	合併時	何をするのか	合併後 10 年
<p>交通網を利用したまちづくり</p> <p>交通の利便性の拡大 小田原市から南足柄市へ繋がるバス路線を作る</p>	<p>行政・自治会・市民が同じ利用率の高い場所・地域を調査し、バス会社へ働きかけ。</p> <p>市内を走る大雄山線を活用したイベント</p>	<p>細かな所へ停留所を置くことによる利便性の拡大</p> <p>バスが身近になることから高齢者の利用率向上が見込める</p> <p>外出率の増加から健康面の回復が見込める</p>	<p>観光の観点からバス乗車時にも楽しめる路線 まちづくり・イベント開催</p> <p>観光・都市セールスの拡大により両市の観光イベントへの参加</p> <p>小田原市～南足柄市へ繋がることにより観光・人口・健康幅広い面での展開</p>
<p>新しい大学を創る</p>	<p>学生寮や大学を中心とした総合的な都市計画</p>	<p>ベンチャー企業創設の支援</p> <p>人口知能 AI の研究</p> <p>VR の開発研究</p>	<p>人口増加 (若い市民)。 都市計画により自然環境が整った住み良い市。 企業の増加、税収増加。 心身共に健康な市民の増加。</p>

2市が一つになることでの新たな出来事	合併時	何をするのか	合併後 10年	どの様なまちになるのか
<p>子ども食堂の一定数、定期開催 所得差や家庭環境の違い、発達や通学に困難のある子どもなどの学力差を無くすために教える側に高齢者を活用し集いの場にする 学習塾支援(低所得者・ひとり親・要学習支援児)</p>	<p>財源・主体者・広報などを問に合わせる</p> <p>食堂のある児童館のような場所を作り両立する</p> <p>定期開催。いつでも開いている必要がある</p> <p>学生が学習指導シニアが手伝いと差し入れ</p> <p>食材確保での企業PR 地産地消</p>	<p>子ども食堂の一定数、定期開催 所得差や家庭環境の違い、発達や通学に困難のある子どもなどの学力差を無くすために教える側に高齢者を活用し集いの場にする 学習塾支援(低所得者・ひとり親・要学習支援児)</p>	<p>子ども食堂の一定数、定期開催 所得差や家庭環境の違い、発達や通学に困難のある子どもなどの学力差を無くすために教える側に高齢者を活用し集いの場にする 学習塾支援(低所得者・ひとり親・要学習支援児)</p>	<p>子どもの学力差を無くす。大人も子どもも孤立を防ぐ。健康寿命の増進。</p>
<p>お互いの市の「子育て支援」を比べ良いところを合わせた政策</p>	<p>すぐに行政が動き調査できる</p> <p>政策内容はパブリックコメント等で市民からの意見も参考にする</p> <p>市民目線で考えることで必要ない支援、必要な支援、優先順位がわかる</p> <p>両市の政策を取り入れ充実させる</p> <p>「びんたっこ」を南足柄市へ拡大</p> <p>ポラテンティア(観光案内、地域活性、学習指導)</p> <p>学生コミュニケーションの創設</p>	<p>お互いの市の「子育て支援」を比べ良いところを合わせた政策</p>	<p>他市町村から子育て中の若い世代が転入し、定住人口増加の効果を期待できる。</p> <p>教育の充実したまち。 県西地域という単位で地元を見ることができ、地元を誇りを持てる。</p>	<p>他市町村から子育て中の若い世代が転入し、定住人口増加の効果を期待できる。</p> <p>教育の充実したまち。 県西地域という単位で地元を見ることができ、地元を誇りを持てる。</p>
<p>児童・生徒・学生間の交流を増加 同じグループ・部活間での交流</p>	<p>毎週 1～2回 公園等の公共施設で夕方まで開催</p> <p>マタニティ期よりサポート</p> <p>市の運営として雇用も生まれ市民に定着される</p> <p>電話・訪問を中心に個々に相談のる</p> <p>子どももの増加(出生率UP) 婚姻率UP</p>	<p>児童・生徒・学生間の交流を増加 同じグループ・部活間での交流</p>	<p>子育て～介護まで悩みを身近な場所相談できるまちに。 子どもが主体的に遊び学べるようになる。</p>	<p>子育て～介護まで悩みを身近な場所相談できるまちに。 子どもが主体的に遊び学べるようになる。</p>
<p>常設プレイパークの設置 ネウボラの全世帯サポート</p>	<p>スポーツ人口のアップとレベルの向上 子どもたちの交流</p>	<p>常設プレイパークの設置 ネウボラの全世帯サポート</p>	<p>子育て世代の転入 活気のあるまちに。県西地域にスポーツのプロチーム。</p>	<p>子育て世代の転入 活気のあるまちに。県西地域にスポーツのプロチーム。</p>



2市が一つになることでの新たに出来ること	合併時	何をするのか	合併後 10 年
両市にまたがるスポーツイベントの開催	<p>行政が参加者を募り、協議会を立ち上げる</p> <p>企業も参加協力</p> <p>年間 3・4 回のイベント。最初は行政主導で</p> <p>自然のバリエーションを知る</p>	<p>協議種目の年間計画を考える</p> <p>リーダーマナー・地域版 報徳マラソン広域版</p> <p>ソールド金次郎・金太郎</p> <p>市民ホールと文化会館との関連</p> <p>大学・その他教育機関との連携 (支援・協力) → 人材の確保 高校や大学は若い人の流れを作る</p> <p>市民活動と行政の連携で健康づくり 食・運動</p>	<p>実行委員会組織が運営している</p> <p>学生ボランティアの協力</p> <p>児童・学生の地域活動への参加</p>
医療の充実	<p>施設の共有</p> <p>人材の確保</p> <p>お互いの理解</p> <p>市立病院の建て替え等 市立病院を充実</p> <p>未病の取組み</p> <p>予後のケアシステム</p>	<p>市立病院</p> <p>地域の医療・福祉施設で活躍</p> <p>2 市内の高校・大学の連携 (例) 足高国際医療福祉大学</p>	<p>市民の健康を大事にするまち。将来に不安のないまち。健康、若者、税収。</p> <p>地域で育った若者が地元で活躍。</p>
定住人口増加に向けた特徴ある地域づくり	<p>広い地域でより多くの魅力ある地域をアピール市の多様性を知ってもらおう</p> <p>住まい体験プログラム</p> <p>市内で「都会」「田舎」を分け、様々なニーズに応えられるまち</p> <p>地元の人気があつかなかつた魅力を再発見</p> <p>市内在住まいマップ作成 (観光マップの住まい版)</p> <p>ミスマッチを防ぐ</p>	<p>時代により地域の魅力も変化 数年後に改定版</p> <p>プログラムの質の維持 参加者のフォロー</p>	<p>若者が働く場所が増える</p> <p>人口増。 → 地域経済活性化、税収増。</p>

2市が一つになることで新たに出来ること	合併時	何をするのか	合併後 10年
<p>安全・安心に効率的かつ暮らしやすい生活のネットワークの構築</p>	<p>既存インフラは原則活用、新規建築を原則廃止する</p> <p>ダイバシティ。地方都市でありながらいろいろなライフスタイルに対応できる考え方への変化</p> <p>合併を通じていろいろな考え、立ち位置があることを認める</p> <p>市民同士がつながることのできるコデーネット ⇒ より大きな市民の基盤づくり</p> <p>何が市民からみるとたりないのか事業評価の見直し第三者評価の導入</p>	<p>セーフティネット関連窓口を統一する水際対応をやめる</p> <p>シルバー世代を子育て世代のサポートにする「ばーば倶楽部」を新市全体に広げる</p> <p>子どもの居場所をつくる。子どものセーフティネット作り</p> <p>適正な予算配分市立病院等セーフティネットの拡充</p> <p>いろいろな立場の発想の理解と想像力を培う文化に繋がっていく</p>	<p>古いもの新しいもの地元に着目して働く人、都心で働く人、若者男女、子育て世代、介護世代、多様な市民の誰もが住みやすく活動ができる都市。</p>
<p>広域的な視点から道路や市街地の整備、文化施設スポーツ施設などの整備を効率よく実施することができ</p>	<p>重点的な投資がなされるか</p> <p>行政経費が節約され、少ない経費でより高い水準の行政サービスが実施されるか</p> <p>道路計画や公共施設の維持管理の必要性を考える</p>	<p>2分の1住民投票</p> <p>議員有志と市民委員の意見交換の時間を作る</p> <p>中学生によるロビイング学習</p> <p>選挙権積立制度</p>	<p>経費削減により、予算配分を変更できると、高齢者などへの安定的なサービスの提供・充実を図ることのできるまち。</p>
<p>意見集約の仕組みの追加</p> <p>市民参画のあり方の見直し</p>	<p>「増税してでも大切にしたいこと」諮問会</p>	<p>毎年度の決算報告主要な総合計画の策定毎に引き続き開催していく</p> <p>市民の発想が議会の議論とかみ合い意思決定に参加できる</p>	<p>政治への忌避感を取り除く。</p> <p>未来への見通しを持って少子高齢化に対応し将来世代に価値のあるものを引き継ぎ責任を果たしていけるまち。</p>
<p>市民ホールと文化会館の存続の整合性</p>	<p>市民ホールの建設延期</p> <p>建設と利用促進双方の予算を再考</p>		



